

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400135		
法人名	医療法人社団 阿育会		
事業所名	グループホーム あんじん		
所在地	千葉県香取市佐原イ1681		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	平成30年4月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>「愛されていない命は一つもない・尊ばれない命は一つもない」この理念を運営やケアサービスを提供するうえでの拠り所としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じた外出、散歩 ・医療連携の充実を図り、利用者のニーズに応えた生活支援を提供しています。 ・室内では風船体操、タオルなど身近な物を使って体操をしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>街中にある事をメリットとし、日常生活の中で交流が生まれており、買い物や散歩などで新たな交流を作っている。近所に法人の医院があるので急な体調の変化にも迅速に対応が可能である。施設に入ったら職員が行うのではなく、家族に衣類の交換をしてもらうことで、現状を見てもらい衣類の購入などで家族のかかわりを増やしている。猫を飼うことで、生活に変化やはりを出し、世話をするという気持ちが生まれるようにしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	愛されていない命は一つもない、尊ばれない命は一つもない この理念を共有し実践につなげている。	職員には理念は浸透している。理念はフロアに掲示することで、職員と利用者が常に見て確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、散歩、子供会、佐原の大祭見物など行っている。	利用者が地元の方であるので、散歩に行くとき声掛けがあったり、訪問もある。町内会にも入り、回覧板も一緒にもっていき、地域との付き合いはできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会で認知症よろず相談所としての看板の話や認知症サポーターリング等をお伝えしています。地域貢献までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族と一緒に利用者の方にも参加してもらい、運営推進会議では当ホームの現況、スタッフの勤務状況、研修報告をし、事故報告、苦情報告からより良い運営方針や改善点を話し合いをしている。	年に2回の開催をし、家族・地域の方も参加されて会議ができています。食事会として自然に意見がでやすくしている。看取りなどに対しての意見などもでている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の福祉課の方に運営推進会議に参加して頂き、事業所の様子を伝え、意見をもらっている。地域密着型サービス連絡会開催時に参加し協力し合っている。	年に4回の運営会議に参加してもらい、施設の状況をつたえ、意見ももらったりしている。連携はとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の引き継ぎ時等、プチミーティングにてケアについて話し、その際にお互いに危険度を考慮しながら拘束になっていないか検討している。	身体拘束は行っていない。また、月1回のミーティングにはほぼ全員参加し、話し合うようにはしている。研修はあればいく程度である。	常に変わりつつある介護の状況に合ったものを吸収されるには、研修の参加が必要ですので、研修への取り組み方の改善を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止徹底の為、職員の勉強会、ミーティング、研修会参加等で防止に努めている。		

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどの場で職員が成年後見制度について熟知するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族にも十分な説明を行い、改定時には文章を付けて個々に説明をし、不安や疑問点をたずね理解と了承を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で利用者や家族からの意見を伺い、運営に反映させている。	会議等ではでなくても、後日個人的に意見がでたりしている。意見が出た場合は出来るだけ柔軟に対応するようにしている。意見箱の設置はしているが、今までに意見は出ていない状態である。	会議の資料などの整備を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、職員の意見や提案を訊く機会を設け反映させている。利用者の声や思いを具体的に計画できるように担当を決めながらすすめている。	ミーティング時に職員の意見は聞くようにし、他施設との合同ミーティング時に意見を出すようにし、対応してもらっている。職員は全てが有資格ではない。	ミーティング時の議事録の改善を望みます。職員の資格取得など計画的に取れる取り組みを望みます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の就業状況や意向を把握し改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修し、管理者や職員を経験に応じ育成するための計画を立て、勉強会、5施設合同ミーティングを三カ月に一回。あんじんにて月1回実施し、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会等で同業者と交流する機会を持ち、勉強会や他の施設などの見学会等を実施し、質の向上に取り組んでいる。香取市医療福祉行政交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意欲的にスタッフより言葉かけや会話をする場面を作り、親しみやすさ、不安を和らげる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安なことに耳を傾け、より良い関係作りに努め、安心して頂く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や担当者会議等で状況を見極め、必要としている支援を検討。家族の対応を踏まえて対応するようにする。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存能力を見極め、出来る事は積極的にやって頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出時、都合がつけば家族の協力を得て参加して頂き、一緒に楽しんでいただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の思いを伺い、馴染みの人や場所などの関係が途切れないよう支援している。	同敷地内にデイサービスがあり、近所の方が来ているときは、デイサービスに行ったり、普段の散歩も近所の方からの声掛けもある。友人の訪問もあるので、対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、孤立することないようにスタッフが利用者の中に入り、場を盛り上げるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当する方がいません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族に生活に対する意向を伺っている。利用者とのコミュニケーションの中でニーズをひきだし、その人らしさを考慮しながら検討し把握に努めている。	本人や家族の意見を聞きながら対応している。普段のコミュニケーションの中で聞き出すように工夫し柔軟に対応するようにしている。介護度によっては食事の変更なども行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを利用し、チームからの情報を集め、共有し、生活歴、馴染みの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌や個人記録から情報を共有し、引き継ぎ時やミーティングにて話し合い共通理解を深めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用し、チームより情報を集め、ミーティングにて本人、家族の意向を踏まえながら課題とケアのアイデアと工夫を話し合う。本人、家族に介護計画の説明をし、了承を得ている。モニタリングも同様に見直ししている。	計画書については、定期的に見直しを行うが、ミーティング時に職員の意見を聞き、家族や本人の意向にそうようにしている。介護度の変更時にも同様に行っている。	書類に評価項目がない状態であるので、書類についての話し合いと変更を望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、個人記録に気づきを記入し、継続して皆で共有している。生活に生かせそうなこと、改善できることは即実行し、ミーティングで再度検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人で隣接するデイサービスより入居された利用者が馴染みの友人に会い、共にレクリエーションに参加できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の夏祭りに参加。近くのグループホームの夏祭りに参加し、ゲームなどに積極的に参加しました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が系列医院のため、本人は家族とともに納得されている。また、適切な医療を受けられるように他医療機関と連携をとっている。	家族と本人が納得のもと、主治医が系列の内科の医院である。歯科などの対応は家族に行ってもらっている状態である。	感染などの研修や書類の見直しが必要です。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの一人が看護師として従事しているため、日常の健康管理や医療連携の支援も充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供書を地域連携室に届け、電話にて病院関係者と情報交換を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療と連携を図りながら、本人や家族の意向を伺い、終末期に関しては家族と共に本人の心に寄り添えるようにしている。	終末期に対しては、家族の意向などを聞きながら、利用者の状態を看護師と相談しながら行い、看取りもついても家族の意向を大切にしている。他利用者にも話すことにより、見舞いなども行っている。	看取りについては、看護師の指導のもとに行っているようですが、介助員として何が出来るか、話し合いより良いものにする工夫が必要です。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、看護師の指示のもと、指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応として警察、消防署に即時に協力依頼できるようにしている。昼と夜間を想定した自主消防訓練を行い、避難方法の確認をしている。	デイサービスと合同で行ったり、年2回消防の指導の下に時間を計りながら行っている。近所の方への声掛けは行っているが参加はされていない。備蓄は2日分は確保している。	書類の整理を望みます。

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の書類等については所定の場所に保管し、個人情報の保護を図っている。日常的にも入居者のプライバシーに配慮し、申し送り方法や声かけに気を配り、相互の信頼関係を大切にしている。	個人情報の取り扱いには気を付け、入所時に説明を行い同意書はもらっているが、研修等を行っていない状態。呼び方は地域にそったもので行き丁寧すぎるものではないようにしている。	個人情報の扱いは、厳しくなっているので、研修への参加を期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に説明して希望を伺うようにしている。なるべく具体的に分かりやすく話をして、本人の表情や行動から気持ちを受け止める事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は何をしたいですか？と聞いて希望に添ったり、具体的な提案をして選んでいただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者に応じておしゃれの支度をおこなったり、二ヶ月に一度理容室さんに来てもらい、ヘアカットをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と同じテーブルを囲み、明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。食べたいものを伺い、盛り付けに工夫し、個別に用意しておく。	献立表はなく、その日の職員が食材や買い物に行き、決めている。季節の食材を使ったり季節の物は大切にしているが、専門のチェック環境ではない。職員も同じテーブルで同じ食事をすることで楽しい食事を心掛けている。	食事に関しては専門の知識は求めてはいない状態のようですが、施設として専門の意見を聞いたり、新しい料理の提供などより楽しい食事にする工夫を望みます
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	タンパク質を中心に野菜を多めに摂ってもらう。食事時、おやつ時に水分を多めに摂れるよう支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夜は菌みがきやうがいの声かけを行っている。入れ歯の方は洗剤剤を使用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行きたくなくなったとしても行けるように配慮し、本人の行動パターンを把握し、本人のやり方を重視して自立支援している。	排泄のパターンの把握には努めているが、自立に向けた取り組みは行っていない状態である。	自立に向けた支援を望みます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を記録し、把握しながら本人に意識づけたり、水分や野菜を多く摂取して頂く。本人の希望によりヤクルトや牛乳を飲む方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	脱衣場は暖かくしてあり、入浴は毎日実施している。本人の希望に応じて回数や時間帯等を柔軟に対応している。本人のタイミングを見て声かけし、入浴を楽しんでいただいている。	本人の希望に沿った柔軟な対応を心掛けている。入浴の拒否があった場合にはその都度対応している。季節でゆずや菖蒲湯にしたり、時にはバラ風呂などの時もある。シャンプーも自分の物を使っている方もいる。	入浴がより楽しみになる工夫を望みます。使用している椅子の状態で買い替えなどの検討も期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思による行動や言葉、様子より横になったり、ソファでくつろいでいただく。夜間は排泄後安心して眠れるように支援している。不眠の心配な方は主治医の指示のもと眠剤を服用し眠られる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の薬説明書を確認し、内容を把握しておき、特に薬が変わったときは、効果、副作用について注意し、症状を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力希望に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。天気の良い日は庭を散歩されたり、外でお茶をする。デイサービスのレクにも参加し、外部との交流も図る。季節の行事、誕生会、外出も企画実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に応じて散歩、買い物を行っている。お花見(桜、あやめ、バラ、コスモス、菊の花)佐原の大祭(夏、秋)、又、月に一度の夕食なども楽しんでいる。	普段は利用者に聞きながら、近所に買い物に行ったり、弁当を持って出かけたりしている。遠足には年に1回行き、泊まりは家族負担だが行った。外食も定期的に行っており利用者が喜んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買い物や飲食代など積極的に支払いを見守る。毎週定期的に購入している飲み物など、支払をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望でいつでも電話できるようにし、耳の遠い方などは隣にいてサポートしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に利用者さん優先で居心地良く過ごして頂いています。外出時の写真など、スタッフと一緒に整理したり、貼ったりしています。風呂場は温風ヒーターを使用しています。	猫が二匹おり、利用者も世話をしている。遠足に行った時の写真が壁に飾ってある。マッサージチェアが置いてあり、利用者が使っている。ピアノも置いてあるが、現在は使用していない。	写真の掲示を見て楽しくなるように工夫を期待します。掲示物も定期的な入れ替えや、棚の整理も必要です。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が気軽に話をしたり、生活できるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TVを設置するなど、一人の時間を楽しめるよう支援しています。使い慣れた品物を置いたり、写真を貼ったりしています。	部屋の中は自由に使用してもらい、自宅で使用したものを持ち込んでもらっている。衣類の入れ替えは基本は家族に行ってもらい、現状を見てもらうことで、新しい服の購入なども家族が積極的に行ってくれるようになった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレの場所がわからない方にはさりげなく誘導させていただいたり、歩行の安全を見守る。		